教育経済建設常任委員会行政視察報告書

末　吉　利　啓

〇富山県富山市

小中一貫的連携教育について

【所　見】

富山県富山市の芝園小学校・芝園中学校における「小中一貫的連携教育」について、現地にて視察研修をさせていただいた。講師は両校の教頭先生である。今回の視察先のポイントは「小中一貫教育」ではなく「小中一貫【的】連携教育」というところである。背景として体育大会などの行事が生徒の減少によりできなかったことがあったようである。平成20年に新校舎が完成し、両学校が隣接・接続し、一部共有施設として開校した。

校舎はＰＦＩ方式により建てられ、正門から続くパサージュを小学校、中学校共有の動線として設計されている。中学校校舎棟はアトリウムを中心に回遊性のある設計であった。全体的に木材も多く使用され、コンクリートで作られた近年の学校に比べ温かみがあり、かつアートスペース的なデザインセンスも感じさせる。また、教室に壁がなかったり、特別教室や図書室が共用だったり、プールが冬は蓋をして活用できたりと様々な工夫が見られた。ちなみに設計は「シーラカンスＫ＆Ｈ」という建築ユニットで、先進的かつデザイン性の高い学校建築を手がけている。

ソフト面では全ての事業を合同で実施するのではなく、あくまで効果を見極めて合同にするか否かを検討されている。現在は開校当初に比べ合同事業は減少傾向にあるようである。先生方が指摘する同校最大のメリットは「日常の風景として小学生と中学生が触れ合える環境がある」ことであり、小学生も中学生の姿を見て普段の生活や雰囲気を知ることができ、先生も小学生の顔を見ていることで入学してからもスムーズに受け入れることができるようである。何か仰々しい仕組みやハードで中一ギャップをなくすのではなく、あくまで自然な雰囲気でそれを進めている印象を受けた。デザイン、手法、環境、様々な面で今後の学校の有り方について参考になった。

〇石川県金沢市

金沢市における美しい景観のまちづくりについて

【所　見】

常任委員会視察２日目は金沢市に移動し、景観行政について学ばせていただいた。一般質問でも数回取り上げ、足利市景観委員もさせていただいているため、非常に関心のある内容であった。

金沢市は中世より大寺院の門前町として栄え、近世は加賀百万石を誇る金沢城の城下町として華やかな文化が咲き誇った。戦災を受けなかったことから、多くの歴史的建造物や伝統文化が後世に受け継がれた。

昭和 41 年、国は「古都保存法」で京都、奈良、鎌倉の歴史的景観を守る方向にかじを切った。これが刺激となり、金沢市でも昭和 43 年に「伝統環境保存条例」が制定された。これは地方自治体における景観保存条例としては全国初で、後に倉敷市や高山市等が続く。その後、必要に応じて金沢市こまちなみ保存条例、金沢市用水保全条例、金沢市斜面緑地保全条例など次々に条例を制定し、様々な角度から様々なエリアをきめ細かく規制、誘導してきた。

また、条例で規制するだけでなく、その他にも様々な事業を行っていく。景観を守り育てるための審議機関として７つの専門部会を持つ「景観審議会」を組織。町並みの見守りや啓発を行う市民組織「景観サポーター」の任命。条例の数やエリア、建物の状態などによって細かく規定されている「助成制度」の活用。そして市役所のフロア設計は、こうした制度を課をまたいでスムーズに運営できるよう配置されている。

百万石の城下町が 50 年かけて形成してきた歴史的な町並みと景観、そして市民の景観に対する高い意識はそう簡単にまねすることはできない。最後に課長がおっしゃっていた「当たり前の景色を行政や市民が気づけるか。それを守る方向に誘導できるかが重要。」との言葉が印象的であった。足利の何げない風景も、他の街から見れば羨ましく感じるもの、誇れるものもあるはずである。

大正時代の標語に「都市の美醜は市民の心」というものがある。制度や規制も大事であるが、いかに市民の景観に対する心を育むかが重要であることを再認識させられた。